

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「ホームは家・利用者は家族」の理念を徹底し、玄関に理念を掲げ、ひやくぼが自分の家であり、家庭生活の延長として開放的な気分で自由に自分らしく過ごすことを最優先させている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念の実践に向けて、スタッフの業務を優先させることなく、各利用者の生活リズムを優先し画一的なケアに陥らないように常時意見と情報交換を行っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	管理者の生家で顔なじみあり、協力も得やすい状況にあり、畑その他箇所使ってもらっている。家族に対しても畑の収穫物を提供したりまた、毎月家族へのへのお便りの発送や電話等にて常時迅速な対応ができる体制がとれている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	管理者の生家で顔見知りもあり、話をする機会あればそのときを大切にしている。また、ホームの簡単な修繕してもらったりする機会もある。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	閉鎖的な農村地域であるが年数の経過と共に地域の方々と挨拶や話を通じて少しずつではあるが理解を得られてきている。ホームの畑等に出かけていく機会を増やしている。	

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議においても意見交換を行い、また、近隣高齢者の暮らしに役立つことはないか職員間でも話し合っている。(地域に溶け込む一番の近道と認識している)</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価と外部評価を照らし合わせ、常時確認しながら日々のケアに取り組み、いっそうの理念の徹底のために「安全優先」の建物内のみの管理的にならないように高齢者個々のペースを優先させるという意識を深めることが出来た。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域住民、地域包括支援センター、行政、家族、ホーム職員が集まり運営推進会議を開催している。ホームの取り組みや思いを伝えたり認知症についての話をしたり、事業所からの情報提供の場となり、参加者からは積極的な意見が寄せられている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームからは相談や連絡ごとに足を運び、協力関係を蜜にしたいと努力しているが、行政からのアドバイスが少ない状況である。運営推進会議には行政からの参加もある。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>過去に2回事例あり積極的に相談を受け、職員とも意見交換をしながら知識を深めるよう努めている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入所者のレベル低下に伴い、虐待や抑制がないか常時確認し合っている。</p>		

グループホームひやくぼ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明時に十分な時間を確保し、周辺事情等の確認を行い納得が得られるようにしており、ホーム側からの一方通行にならないようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が自由に意見や苦情を述べる機会を確保するため、スタッフルームへの利用者の出入りを自由にし外部に対しては、行政窓口等への苦情申し入れ先について文書にて明記している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書の送付時に入所者の状況を書いた手紙を送付し、電話での連絡体制を確保したり、面会時にも状況報告を遅滞なく行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置し、またお便り等にて自由に述べていただけるよう働きかけ、ホームの苦情や意見を受ける体制を明記し、行政窓口等についても明記して説明を行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常時意見交換の場があり、行事その他「職員からの提案による実施事項が多く」年間計画も職員と一緒に作成している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況変化、家族との連絡体制の迅速化を図り、職員間の連絡を密にして柔軟な対応をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>単独型のため、なじみの関係が出来ており、常時同じスタッフが対応している。(退職者も少なく常時同じ職員が対応のためメリットが多い)</p>	

グループホームひやくぼ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修を利用し・順次参加できるようにしている。受講した研修はホーム内では報告書を資料と共に回覧して共有化を図っている。また、他のグループホームとの職員交換実習も行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会(管理者会議・職員研修)・お呼び経営者懇話会に参加し、会議や研修に参加し、他事業所の職員とも情報交換ができる体制が出来ている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>常時意見交換や提案等を確認しながら、全員が共通の目的を持って、日々の任務が遂行できるように意識の高揚を図っている。</p>	<p>○ 利用者の重度化への対応によりいっそうのストレスが予測され、ストレスが解消できるための研修及び親睦を深める機会確保</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>常時スタッフルームでの情報交換を通じ、牽制状況及び事態経過を把握し、結果に結びつけていくため話し合いの機会を確保している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>関係作りを基本に、各利用者の変化や発言に耳を傾け、リラックスすることを優先させるためにも単独型で職員の交代もなく馴染みの対応が早く行えている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>重要事項の十分な説明と、入所に至るまでの困っていることを十分に確認し、入所後の情報提供や意見交換を充分に行っている。結果の見えるケアを通して家族に実感していたけように努めている。</p>	

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題点やその時に必要なことは事前に十分に話し合い、結果を通して納得が得られるケアを最優先にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学に来てもらい、他の入所者と一緒に過ごしてもらったり、お試しの期間も確保している。家族とは話し合いに時間をかけていて、安心して入所してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、一緒に過ごしながら、泣き笑いし、お知恵を拝借したりしている。実際、教えてもらうことも多く、職員も成長しているところも多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会、お便りその他迅速な連絡体制を確保し利用者、家族、職員が一緒になって会話する機会を確保している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	状況変化や行動から読み取れる部分について、常時情報提供し、特に良かったことや明るい材料を見逃さないように、結果を明らかに出来るできるケアをめざしており、家族の方々に実感していただけるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の利用者との会話の中から聞き取った部分を、家族に確認しながら、また家族から情報が得られるように気軽にホームに来ていただけるよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	混乱と不安を招きやすい認知症の特性を理解し、居間その他あらゆるところでの会話、雑談を通して気軽に話が出来よう配慮している。		

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も関わりが必要な機会が多く、必要に応じて連絡可能な体制を確保している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの気持ちや意向を介護計画に掲げ、またケース記録に書きとめ、ホームでの生活が維持できるように利用者、家族と共に話し合い。医療面でも協力医療機関の指示を受け、計画に反映させている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分な確認を行いながら、ホームでの生活に生かせるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個々の行動や言動特性を把握し、職員間で情報、意見交換しながら現状維持が長く保持できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意見や希望を取り入れ、目標を記載し、ホームでの生活に密着した計画を立てている。医療面でも医療機関の指示を受け、計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、計画の評価をして、モニタリングにつなげ、見直しをしている。状態の変化には迅速に対応している。		

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化、行動特性、その他をケース記録に記載し、変化を見ながら介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助をしたり、家族からの希望には柔軟な対応をしている。利用者は自由に暮らしており行動規制はしていない。家族のホームでの宿泊も可能としている。マイクロバスでの2泊旅行を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事例が少なく必要であればいつでも協力する体制はとっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事例が少なく同業種やその他の事業所にも確認するが、あまり必要性は見えてこない。必要に応じて実施できる体制はとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連絡、連携は可能な状況にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が月2回あり、外部受診が必要な時には協力医療機関の紹介も得られている。緊急時には24時間の連絡体制があり迅速な対応も可能である。電話による指示もあり、柔軟な対応が可能となっている。		

グループホームひやくぼ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方を理解した上で声かけし、個々に応じた接し方をしている。個人情報の観点から、漏洩がないように、記録物は事務所に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症という疾病上、指示や命令が極めて困難なため、行動、言動については支持的な対応を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めずに、自由な暮らしの支援をしている。就寝時間や起床時間、入浴についても自由であり、利用者は自分のペースで過ごされている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	必要に応じて家族と相談したり、本人からの要望に応じて柔軟に対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立はその日に考え、調理、食事、後片付けと、出来る方と一緒にしている。明るい食事のひとつで笑い声が多く聞かれる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	実施している。また、家族から持参される場合もあり自由である	

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録を記入し、個々のパターンを把握し、トイレでの排泄を優先している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から夕食前くらいなら、自由に選んでもらい希望を尊重して、ゆっくり入浴してもらっている。毎日入浴可能でゆったりと時間確保ができており、本人のペースで入浴している。必要に応じて夜間入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の行動を優先している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花の好きな方や、家事の好きな方等一人ひとりの得意なことや好きなことをしてもらえるように、その方の好みや生活歴を把握し、力を発揮できるような場面作りをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則としてホームでは金銭は預からないが、本人が所持している場合もあり、要望時には買い物等に出かけたり行事の際に使っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭は広く、一人で自由に入入りされ、草むしりや掃除、その他日光浴をされたり、思い思いに過ごされている。弁当持参で遠出したり2泊旅行もあり、楽しい時間を過ごされている。	○	利用者の重度化、現状から戸外での歩行も困難者が多い中、ストレス解消のためにも外出の機会を増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	2泊旅行を実施している。個別的に買い物、または、家族と共に外出される方等もあり自由に出かけられる機会を確保している。		

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の事例は少ないが、電話については自由に利用者の希望に応じている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定もなく、いつでも面会できるようにし、居室や庭、居間等において自由に面会していただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々転倒との背中合わせであるが、拘束事例はない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、自由な暮らしを支援している。庭や建物周囲等の出入りは自由である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動範囲も広くはなく、1ユニットのため人数も少なく常時所在確認も可能であり、建物もバリアフリーで手すりを取り付けており安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品については、確認しながらすべてを撤去することなく、個々の利用者を見守っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の行動特性を把握し、常時安全確認を行いながら見守りを行っている。		

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではないが対応が予測される際に随時実施し、全職員が対応できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは避難訓練を実施し、確認し合っている。防災対策にも取り組み、知人の消防士からも緊急時等対応等のアドバイスを得ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	お便りや面会時または電話連絡等において必要時に十分に説明を行い、その都度拘束、抑制は行わないことを伝えている。。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	情報伝達に漏れがないように、時には記録、時には口頭で個々の状況を把握し迅速な対応を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を活用し、病名と服薬内容と予測される症状を理解し、薬剤師からの助言ももらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便記録を活用し、個々の飲食物や服薬確認を行い、申し送りも充分に行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがい、歯磨き等の確認を行い、毎日入浴の実施ということもあり、困難者には入浴時にケアしている。		

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は記録に残している。摂取困難な方には粥食やキザミ食を提供している。個々の状況に応じて食器類変更等の対応もしている。嗜好にも対応し、状況に応じて個人のメニューを提供する機会を柔軟に確保している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを活用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁、その他の調理器具の消毒に努め衛生管理している。食材については、野菜物は畑からの収穫物多く、新鮮なものを食している。その他の購入品は冷蔵、冷凍にて早期の摂取に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	平屋、民家改造型のホームのため、玄関の雰囲気はそのまま活用し内部はバリアフリーである。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型のホームで、概観や内装も家と同じである。皆が集まるリビングには、置物にも、利用者が馴染めるように配慮している。居間と調理場が続いており、食事前にはみんなが声かけしなくても集まれる雰囲気がある。また、庭の花等をテーブルの上に生けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭への出入りも自由で特に決められた日課等もなく、みんなが自由に好きなところで過ごすことが可能で、時には利用者同士で庭の椅子に座って雑談していることも多く、時には居室にて過ごしたりゆったりとしたペースで過ごしている。		

グループホームひやくぼ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	安全に移動が出来るように配慮しながら、使い慣れたなじみのものやこだわりの物を持ってきてもらい、その人らしい、居心地のいい居室作りを行っている。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	居室、居間の空調機の確認や温度調整には充分配慮し、土地柄、換気については窓の開放も行いやすく、問題はない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	バリアフリー、手すりの設置あり、移動困難者には手引き、または車椅子使用等個々に応じた配慮をしている。		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	声かけに重点を置き、反応を確認しながら些細な変化を見逃さないように個々の安定を図っている。		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	庭に出て利用者が雑談、散歩、または面会等に庭を使用したり、季節や天候に応じて庭での食事やおやつ摂取に利用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームひやくぼ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

周辺の自然と調和した民家改造型のグループホームです。「ホームは家・利用者は家族」との理念が浸透しており、アットホームな雰囲気の中、利用者は庭や居間せゆったり楽しく自分のペースで生活されている。職員は個々の入所者をよく理解し、ホームの決め事や指示を押し付けることなく、自分の好きなように過ごせるよう配慮と見守りを重視したケアを行っている。家族とのつながりを大切にし、家族の要望や意見を明確にしながら日々の記録、介護計画に反映させている。また、毎月のお便りで各利用者様の様子をお知らせする取り組みを行っている。また、年に一度は宿泊旅行を実施してみんなで旅行気分を満喫しており、継続して実施していることは大きな特徴で成果も大きいと言えます。